

最後まで支持訴える

激戦 最後まで支持訴え

稲津 久氏 (63) = 公明前

神谷 裕氏 (53) = 立憲前



「持てる力を尽くして政策を進める」と話す稲津氏

強力に政策推し進める

稲津氏はこの日の朝、出身地の芦別を出発し、滝川の鈴木貴子外務副大臣や鈴木三登など6市で計15回の街頭演説を重ねた。自民党の鈴木貴子外務副大臣や鈴木三登など6市で計15回の街頭演説を重ねた。自民党の鈴木貴子外務副大臣や鈴木三登など6市で計15回の街頭演説を重ねた。自民党の鈴木貴子外務副大臣や鈴木三登など6市で計15回の街頭演説を重ねた。

稲津氏はこの日の朝、出身地の芦別を出発し、滝川の鈴木貴子外務副大臣や鈴木三登など6市で計15回の街頭演説を重ねた。自民党の鈴木貴子外務副大臣や鈴木三登など6市で計15回の街頭演説を重ねた。自民党の鈴木貴子外務副大臣や鈴木三登など6市で計15回の街頭演説を重ねた。

稲津氏はこの日の朝、出身地の芦別を出発し、滝川の鈴木貴子外務副大臣や鈴木三登など6市で計15回の街頭演説を重ねた。自民党の鈴木貴子外務副大臣や鈴木三登など6市で計15回の街頭演説を重ねた。自民党の鈴木貴子外務副大臣や鈴木三登など6市で計15回の街頭演説を重ねた。



「政治を変えよう」と最後の演説で訴える神谷氏

働く人の政治をつくる

神谷氏は留萌管内増毛町を出発し、留萌市を回って深川から空知管内を南下。「一緒に政治を変えよう」と支持の拡大を訴えた。

神谷氏は留萌管内増毛町を出発し、留萌市を回って深川から空知管内を南下。「一緒に政治を変えよう」と支持の拡大を訴えた。午後7時半からは、岩見沢中央公園で最後の演説を行った。集まった支持者ら450人に向かって「働く皆さんの政治をつくること、ゴールだ」と力を入れた。

神谷氏は留萌管内増毛町を出発し、留萌市を回って深川から空知管内を南下。「一緒に政治を変えよう」と支持の拡大を訴えた。午後7時半からは、岩見沢中央公園で最後の演説を行った。集まった支持者ら450人に向かって「働く皆さんの政治をつくること、ゴールだ」と力を入れた。

きょう 投票開票

31日投票開票の衆院選は30日、選挙戦最終日を迎えた。道10区(空知、留萌管内)に

立候補した立憲民主党前職の神谷裕氏(53)、公明党前職の稲津久氏(63)「届け出順」は共に大栗田の岩見沢市で最後の訴えを行い、大激戦となった超短期決戦を締めくくった。(衆院選取材班)

衆道10区院選

与野党注目の数字は



単独過半数 公示前勢力 +30

自民 233 **立憲 140**

絶対安定多数 261 改憲発議に必要な 310

首相は30日、橋本、野田、菅、岸田の歴代首相を振り返り、岸田首相の求心力が、自民単独で過半数を確保する事実上の勝敗ラインに達していることを強調した。岸田首相の求心力が、自民単独で過半数を確保する事実上の勝敗ラインに達していることを強調した。

きょう 総選挙 1票から未来が始まる

衆院選はきょうが投票日だ。国民が政権を選択する機会は4年ぶりとなる。この1年余りで目まぐるしく代わった第2次安倍晋三、菅義偉、岸田文雄の各政権への審判でもある。

政治のかじ取りは、国民の命と暮らしに大きく影響する。2年近い新型コロナウイルス禍で、それを痛感した有権者は多いだろう。これからの社会の中核を担っていく若者こそ、暮らしの不安を解消するために、どのような政治家が必要かを真剣に考えてほしい。

コロナ以外でも、国民生活に直結する課題は山積している。東京一極集中の是正や人口減少問題の打開策は待たない。少子高齢化が加速する中で、安定した社会保障体制の構築も避けては通れない課題である。

高レベル放射性廃棄物(核のごみ)の発生につながる原発・エネなる。

業者への財政支援など多岐にわたる。実効性の伴った政策を提示しているか、各党の主張を最後まで慎重に吟味したい。

18、19歳の投票権が認められてから2回目の衆院選となる。大学の授業制限やアルバイト先の休業による生活資金不足など、コロナ禍は学生らの生活も直撃した。これからの社会の中核を担っていく若者こそ、暮らしの不安を解消するために、どのような政治家が必要かを真剣に考えてほしい。

設に期日前投票所を設けた。石狩市と釧路管内標茶町は車で巡回する移動期日前投票所を導入した。各選挙区は今後、こうした投票機会を拡充し、力を注ぐべきだ。

1票を投じることが、あすの暮らしを変えるきっかけになる。より多くの有権者の民意を集約することが、責任ある政治の第一歩となる。

ルギー問題も重要な争点だ。いずれも簡単に解決策は見つからない。自らが望む社会のあるべき姿を考えた上で、その意思を投票用紙に託してほしい。

最近の衆院選の道内投票率は全道と同様に低調だ。2014年は過去最低の56%で、17年はわずかに回復して60%だった。棄権は国の未来を多数派に白紙委任するに等しい。

今回は10以上の自治体で商業施設に期日前投票所を設けた。石狩市と釧路管内標茶町は車で巡回する移動期日前投票所を導入した。各選挙区は今後、こうした投票機会を拡充し、力を注ぐべきだ。

1票を投じることが、あすの暮らしを変えるきっかけになる。より多くの有権者の民意を集約することが、責任ある政治の第一歩となる。